～希少がんを知り・学び・集うセミナー！～

希少がん　Meet the Expert

第 6 回 「肉腫(サルコーマ) ～四肢の肉腫～」開催レポート

6 月 9 日(金)、国立がん研究センター希少がんセンターにて、第 6 回「希少がん Meet the Expert」が行われました (共催:がん情報サイト「オンコロ」、認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン)。今回は、第 3 回の「肉腫(サルコーマ)～総論～」を更に掘り下げた「四肢の肉腫」をテーマとし、同センター骨軟部腫瘍・リハビリテーション科の小林 英介先生による講演が行なわれました。司会は希少がんホットライン担当看護師の加藤 陽子さんです。

肉腫は、全身(脂肪、筋肉、骨)のどこにでもできるがんです。日本における発生頻度は、骨の肉腫で 1 人/10 万人、軟部の肉腫で 3 人/10 万人。肉腫にはたくさんの種類があり、発症年齢も幅広いのが特徴です。今回は、四肢に発生する骨・軟部の肉腫に焦点を当て、それらの概要と、期待されている治療法についての解説がありました。

「骨の肉腫」では、その中でも最も多い「骨肉腫」のお話が中心でした。圧倒的に 10 代に多い病気ですが、最近は高齢者にも増えているとのこと。基本的治療は、術前化学療法・手術・術後化学療法で、現在は、8～9 割のケースで患肢を温存できています(人工関節や自分の骨を移植)。「将来的には“3D プリンターによるカスタムメイド人工骨”という時代が来るかもしれない」とのことでした。

また、「軟部肉腫」は骨以外の柔らかい部分にできる肉腫です。治療は手術が必須で、ステージ 1 や 2 で発見できれば高い確率で治癒します。ところが、適切な治療のために重要となる“生検による病理診断”は難しく、「専門施設で行うべき」と言われているとのことでした。そのほか、現在使われている薬剤(ドキソルビシン)に替わる試験中の薬剤(オララツマブ)や、NY-ESO-1、ニボル

マブについての説明など、最新の治療情報をご説明いただきました。

続いての Q&A は、小林先生と加藤さんに、「肉腫(サルコーマ)の会 たんぽぽ」代表の押田 輝美さん、解説としてオンコロ・コンテンツ・マネージャーの柳澤 昭浩さん、同じくオンコロの可知 健太さんが加わって行われました。質問は、「どれくらいで再発について安心できるのか」「セカンドオピニオンについて」「予防のための方法」など。それぞれ、専門医、看護師、患者会、がん情報を発信する立場から、丁寧な回答が行なわれました。時折、笑顔がこぼれる場面もあり、和やかな時間となりました。

押田さんは、「患者会には、まずは治療中の方に来てもらいたいが、治っている方もぜひ来てもらいたい。今、大変な思いをしている人の助けになる場合もある」とお話されました。自分の経験がだれかの支えになることもあるという思いが伝わってきました。

参加者からは、「ネットで調べただけでは、不安だけが増大していた」「このような機会があり、嬉しく感じた」という声がありました。このセミナーは、特に情報の少ない希少がんを専門家から学ぶことのできる、数少ない機会です。それを待ち望んでいた患者さんやご家族が多いことをうかがわせました。

開会挨拶をされた西田俊朗院長は、「ASCO(米国臨床腫瘍学会)で、希少がんについての研究が進んできていると感じた。また新しい情報が入り次第、このセミナーでも紹介したいと思う」とお話されていました。これからの研究、そして今後のセミナーに期待が膨らみます。(詳しくは動画をご覧ください)

(開催日:2017 年 6 月 9 日／写真・文 木口マリ)

【共催】

国立がん研究センター希少がんセンター/がん情報サイト「オンコロ」/認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン

【後援・運営協力】

株式会社かるてぽすと/樋口宗孝がん研究基金/株式会社クリニカル・トライアル/株式会社クロエ